応えて電子情報科スタート!!

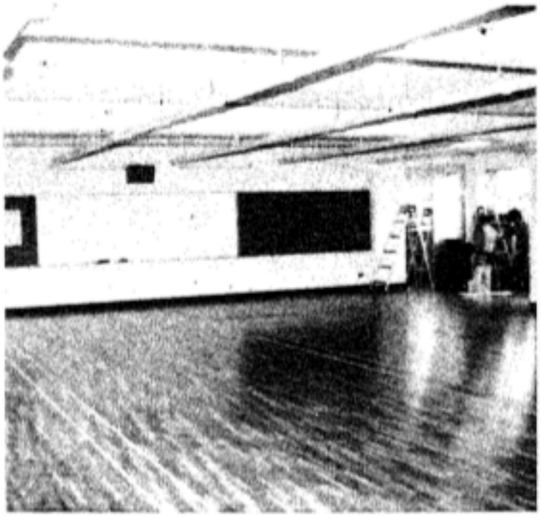
県立谷村工業高等学校

職業高校への新学科の導入は、産業構造の変化などにより、県の産業教育審議会の答申をはじめ、各方面から要望の声が上っていました。

これを受けた県教育委員会の調査・検討の結果、本市の谷村工業高校へも新学科の設置が決定しました。

この間、本市をはじめ、各団体、地元選出の県議会議員の陳情や請願が行われてきました。

この四月からスタートした新学科電子情報科は、みんなの期待をになって動きだしました。新学科について、それぞれの立場からお話しを聞いてみました。



▼工事が着々と進む「パソコン室」

地元の立場から

千野千三さんは、都留市経営者連絡協議会々長として、谷村工高への新学科設置に尽力しました。

千野会長……新学科設置は、都留市、都留市経営者連絡協議会、都留市機械金属工業協同組合、谷村工業高等学校同窓会が推進母体となり、地元県議である古屋、奥秋両先生の協力で実現しました。

請願の要旨として、産業構造の変化に対応し、郡内地域の発展を図るための技術者、技能者の育成を強く要望しました。地元として、非常に期待しています。

学校長の立場から

土橋克巳校長は、県下でも電子関係に精通した数少ない先生であり、岡山県の玉野高(昭和五十九年春に新設、情報電子科がある)から資料を取りよせるなど新学科設置に力を入れてきました。

土橋校長……産業構造の変化と地元からの要望によって誕生した電子情報科は、最新のパーソナルコンピューターと実験施設をそなえてスタートするわけですが、そのためのスタッフは、充実しています。科長としてこの科の指導にあたる清水先生は、この分野の第一人者でもあり、生徒・父兄の期待に十分応えてくれることと思います。

今エレクトロニクスはあらゆる分野に浸透しています。コンピューター制御された旋盤、織り込む模様をコンピューター制御している工場、経営、事務処理に使われるパソコンなど限りなくあります。

電子情報科に限らず、他の科においてもコンピューターの知識と操作を学ぶことは必要不可欠となってきております。

他県においては、工業科と商業科、工業科と普通科といった組合わせで、カリキュラムに幅をもたせて授業を行っているところもあります。

ようするに、電子情報科の施設、設備を共有することによって他学科の生徒も新しい技術を学ぶことができます。また、各科の教師らがノウハウを交換することによって、新しい分野も開拓できるのではないでしょうか。

こうした波及効果をどう引き出すか、これが我々工業高校の課題でもあり、方向でもあると思います。

最後に、本科の最新の施設と設備を一般にも解放し、本市の産業構造にあったカリキュラムによって、技術力の向上を図ることも大きな課題…使命であると考えております。